

# ハワイ, カウアイ・コミュニティー・カレッジ教員・看護学生受け入れ報告 2007-2008

山口 智美<sup>1</sup>・浦田 秀子<sup>1</sup>・入山 茂美<sup>1</sup>・井上 晶代<sup>1</sup>・中尾 優子<sup>1</sup>  
佐々木規子<sup>1</sup>・野村亜由美<sup>1</sup>・田中 悟郎<sup>1</sup>・鶴崎 俊哉<sup>2</sup>・中島 久良<sup>1</sup>

保健学研究 21(2): 85-92, 2009

(2009年2月20日受付)  
(2009年3月13日受理)

## I はじめに

アメリカ合衆国ハワイ州カウアイ島, カウアイ・コミュニティー・カレッジ (以下, KCC) より長崎大学医学部保健学科との学生間及び文化交流を深め, かつ日本の保健看護事情を理解するために教員派遣を実施したい旨の依頼があった。長崎という歴史的背景や地の利, 更には長崎大学の国際交流活動への積極的姿勢も追い風となり, 保健学科教育研究委員会を窓口にて2007年6月17日～21日の5日間 KCC 教員3名を受け入れた。続いて, 2008年3月22日～29日の8日間 KCC 教員2名と看護学生6名の受け入れが終了したのでその交流活動内容について報告する。

## II ハワイ州及びカウアイ島の概要と健康問題

アメリカ合衆国ハワイ州は太平洋の離島で形成される人口1,245,050人<sup>1)</sup>の州である。カウアイ島はハワイ州の1郡としてオアフ島の西約110kmに位置する, ハワイ諸島で4番目に大きな島である (図1)。その誕生はおおよそ500万年前と推定され, ハワイ諸島の中で地質学上

最古の島といわれている。島の中央部にあるワイアレレ山は世界一降水量が多く, その水資源と緑の豊かさ故にガーデン・アイランドとも呼ばれている。

ハワイ州の人口構造及び年齢分布を図2 (State of Hawaii, Department of health, Hawaii health Survey 2005<sup>1)</sup>より抜粋)に示した。先に述べたように, 2005年現在のハワイ州人口は1,245,050人。貧困層が目立つ多民族社会である。ハワイ全体として見ると日本のような高齢化は進んでいない。カウアイ島の人口とその年齢分布については, アメリカ合衆国地域調査2005～2007年を基に作成されたU. S. Census Bureau 資料<sup>2)</sup>を活用した (図3)。カウアイ島の人口は約62,000人であり, その15%を65歳以上高齢者が占めるという島全体の高齢化がうかがえる。また, 民族性については, 全体の44%が白人, 1%が黒人, 0.5%がアメリカンインディアンとアラスカ原住民族, 42%がアジア系民族である。アジア系民族の12%はハワイ原住民族や他の太平洋諸島民族である。全体の23%が自らの民族的背景として2種類以上の民族的帰属を併せ持つと報告されている<sup>2)</sup>。

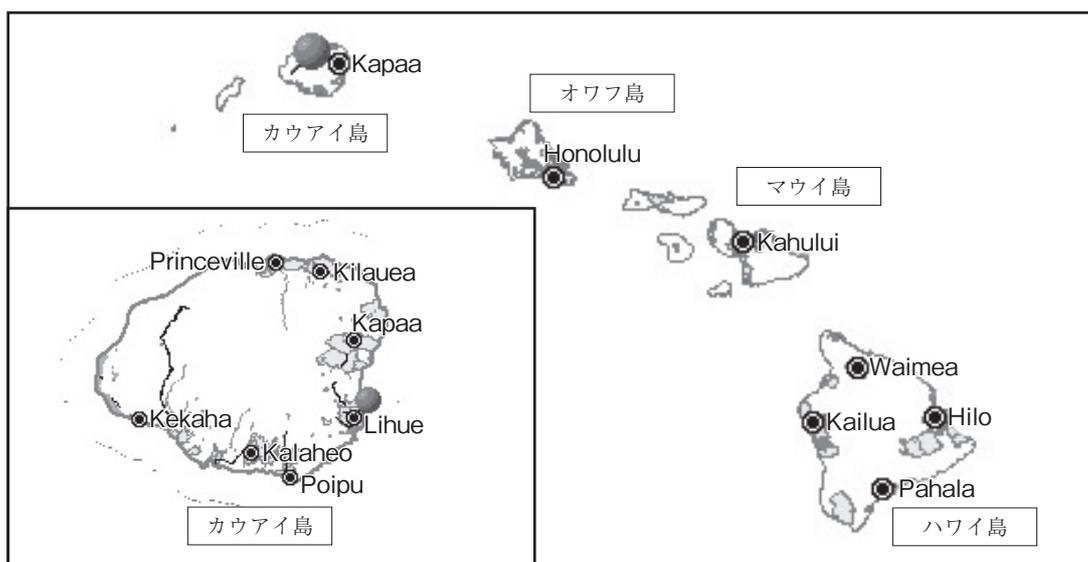


図1. ハワイ諸島地図 (U.S. Census Bureau<sup>2)</sup>より作成)

1 長崎大学医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座

2 長崎大学医歯薬学総合研究科保健学専攻理学・作業療法学講座

Figure 1.1. Demographic Variables for the State of Hawai'i and By County, Hawai'i Health Survey 2005

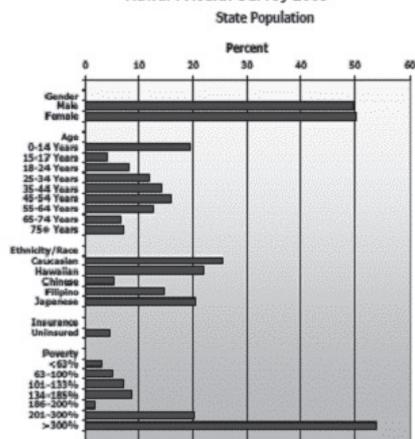


図2. ハワイ州の人口構造・年齢分布  
(資料: State of Hawaii, Department of health, Hawaii health Survey 2005<sup>1)</sup>)

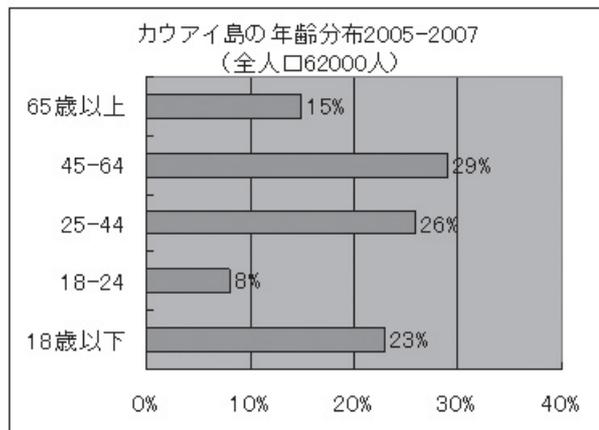


図3. カウアイ島人口年齢分布  
(2005-2007U. S. Census Bureau<sup>2)</sup>を基に作成)

ハワイ州の健康問題としては、図4が示すように関節炎や喘息を始め、いわゆる生活習慣病である糖尿病、高コレステロール血症、高血圧が多いことがわかる。加えて、肥満の問題は軽視できない状況であり、BMIが25以上のオーバーウェイトを含む肥満はハワイ州全体の52.4%である<sup>1)</sup>。その他ヘルスシステム上の特徴としては、ネイティブハワイアンヘルスケアが設置され、ハワイ現住民特有の健康問題や生活問題に対する民族・文化的背景を考慮した対応が試みられている。また、ハワイには独自のハーバルメディスンやヒーリングなどの代替療法も今尚継承され、いわゆるバイオメディスンとの

ユニークな共存が見られる。

離島医療の充実も特徴的である。早くからヘルス情報技術を活用した、テレメディスン及びテレナーシングなどの“Telehealth”<sup>3,4)</sup>が導入されている。長崎県は日本で一番多くの離島を抱える県でもあり、この離島医療という点では問題や課題の類似点もある。

### Ⅲ カウアイ・コミュニティ・カレッジの概要

KCCはカウアイ島の中心地リフェに位置し、地域のニーズに根ざした教育を展開している。KCCはハワイ大学の10キャンパスの一つであり、ハワイ大学システムとして連携した教育・研究活動を展開する中で、看護師及び看護助手の養成の他に、自然科学と数学、ビジネス教育、人文科学、幼児教育、自動車関連実業技術等全部で32のプログラムを有し、約1,000人の学び舎となっている<sup>5)</sup>。学生の民族的背景は多様であり、白人やハワイアン、フィリピン人と並び日本人は約10%を占めている。看護学科の定員は年間30人であり、現在1年次生31人と2年次生29人が在籍する。2年間のRegistered Nurse (RN) 教育を行っているが、1年次から2年次への進級判定で合格ラインに達しない学生はPractical Nurseとして900時間の実務経験を積むことになる。教員は11名(内看護専門教員は9人)である。2年間の教育課程終了後は遠隔教育でハワイ大学看護学部、主としてマノア校のプログラムを終了することで看護学学士の称号が得られる。ただし、就業する上で2年課程のRNと学士RNとの間に処遇的な差がないこともあり、学士プログラムへの進学は1割程度である<sup>6)</sup>。看護教育では、臨床看護とプライマリーケア、地域との連携を重要視している。キャンパス内には看護教員によって運営されている保健センターがあり、その設備はフィジカルアセスメントやSTD検査等にも対応でき、学生、地域住民、大学関係者とその家族に開放されている。若年者の薬物・アルコール・

Figure 4.7.A. Prevalence of Chronic Conditions By Ethnicity, Hawai'i Health Survey 2005, AGE ADJUSTED US Census 2000

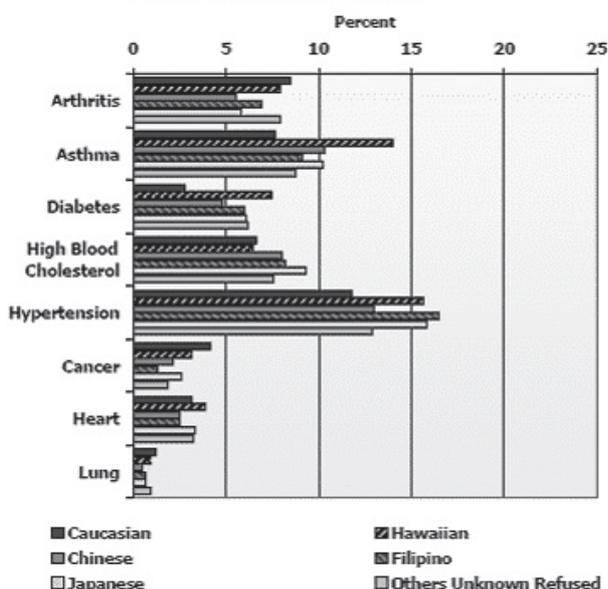


図4. 年齢調整済み民族別慢性疾患有病率  
(資料: State of Hawaii, Department of health, Hawaii health Survey 2005<sup>1)</sup>)

性に関する問題やカウンセリング機能だけでなく、ネイティブハワイアンメディスンやハワイ・ロミロミマッサージ教室等地域に開かれた文化的活動拠点にもなっている。

IV 2007年6月、KCC教員3名の受け入れ

KCC教員3名の受け入れ要請を受け、保健学科では教育研究会を受け入れ窓口として、KCC教員受け入れワーキングを立ち上げた。KCCからは、KCC国際交流の窓口である継続教育委員会委員長かつ自然科学教授のブライアン・ヤマモト教授、看護学科のシャーリーン・オノ教授及び看護専門教員のスーザン・ブローリー女史の3名が来学した。2007年6月17日から21日までの5日間長崎市内に滞在し、医学部長表敬訪問を始め、保健学科教員及び学生との交流を深める活動を行った。見学先として、長崎大学医学部・歯学部附属病院の他に恵みの丘原爆ホーム、長崎北病院の3医療施設及び長崎の歴史と文化理解のために長崎大学坂本キャンパス周辺、原爆資料館、長崎歴史文化博物館等の市内施設を訪れた。



河野医学部長表敬訪問

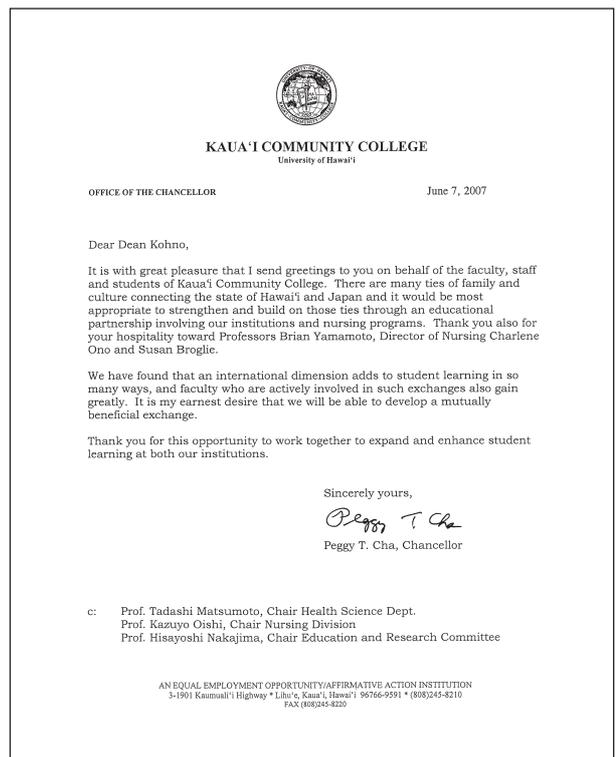
訪問先での患者ケアサービスの実際を理解する中で、ケアの質の高さやリハビリテーションの充実に深く感激されていた。特に恵みの丘原爆ホームでは「看護の本質がここにある」とオノ教授が涙ぐまれる場面もあった。将来的にKCCの学生を派遣し、長崎の医療サービスを通して日本の医療システム及びケアサービスを学び、自国を振り返る機会として発展させることを強く希望された。また、長崎という土地が日本の国際交流の歴史そのものと深い結びつきがあることや、平和学習をする上で最適であるとの認識も示された。更に、長崎大学が誇る熱帯医学研究所及び原爆後障害医療研究施設等を訪れることはKCCの学生にとって貴重であると話された。学生間の文化交流及び日本の保健医療システムを学ぶだけでなく、学生の視野を広げる好機であるとして、今回の訪問が有意義かつ将来的発展を期待できるものという評価であった。実際に6月19日に開かれたKCCと保健学科の教員会議では、今後の交流のあり方について検討された。ここでは今後の可能性についてと交流可能な時



お茶の体験

期及び交流に伴う費用やホームステイ期間等の大枠について話された。具体的にKCC学生受け入れ時のプログラム内容は今回の視察内容と同様のものを希望された。また、仮に保健学科の学生がKCCへ派遣される場合には医療施設見学の他にフィジカルアセスメントやハワイの伝統的代替療法、ウェルネスセンターでの学習等が可能であると提示された。交流時期は学生の休業期間中1週間程度とし其の都度調整することや、ホームステイは1日ないし2日間とし、滞りや見学等に係る費用は原則として派遣側の自費であることなどが話された。学生交流の進め方はまず学科間で覚書を交わし、実績を重ねた上で大学間協定へと進める方向で合意された。

資料①はKCC教員3名の帰国後にKCC学長ペギー・チャより送られた感謝状である。視察受け入れに対する感謝の意と双方の学生にとって有意義な学生間交流の発展に期待するという内容になっている。



資料① Peggy 学長からの手紙



ウェルカム・パーティー

滞在中には学生と教員との交流を深める場としてウェルカム・パーティーが催された。ここに学生からの感想の一部を紹介する。

「国際交流を通して」

作業療法学専攻1年 陶山保子

カウアイ島からの先生方との交流会に参加してカウアイ島のことを知り、その自然の中で日本人を始め、他の国々の人たちが看護を学んでいるとわかった。食事を交えたパーティーでは、チームに分かれてゲームをしたり、ハワイの話を直接聞いたりすることができた。以前から海外に興味を持ち、海外ボランティアをして思ったことは、その土地の文化や習慣を知り、どんなものにも興味を示すことが大切だということ。そして、現地の人話を聞き、自分の意見を言うことが重要だと思う。人としてどう向き合うか、どう支え合うことができるかを考えながら、今後も国際交流を続けていこうと思う。更に広い視野で日本や世界の国々を見て行きたい。

「KCCの先生方との交流を終えて感じたこと」

看護学専攻 3年 長岡佐千子・原田美弥子

今回私たちはハワイのカウアイ島にある大学から来られた先生方にカウアイ島についての紹介を受け、その後食事やゲームなどを通して交流を深めました。もちろん会話は英語で最初はお互いの意思疎通ができるかどうか不安だったのですが、日本語も少し話されたので、親近感が沸き親しみ易かったです。大学は海や滝などの美し

い自然環境に囲まれたところにあり、日本との環境の違いに驚きました。また、看護学生が施設の高齢者との海水浴をボランティアとして楽しんでいる様子や、道具を用いて体の不自由な人の体験などを行っている様子も写真で見せていただき、環境をうまく利用しながら、様々な体験をしていることがわかりました。環境も言語も異なる人と接することで、世界の広さを感じたと同時に今後はカウアイ島の大学の先生方だけでなく学生との交流を深めてお互いに意見を交換し、視野を広げられる機会につながれば良いと考えました。

V 2008年3月、KCC学生6名と教員2名の受け入れ

2007年のKCC教員3名の受け入れ後、保健学科へKCC学生受け入れの依頼があった。保健学科では教育研究委員会を窓口として、2008年3月22日から3月29日の8日間に渡り6名のKCC学生及び教員2名を受け入れた。前回の教員受け入れ時の内容を基にプログラムを構成したが、保健学科学生の卒業証書伝達式及び卒業パーティー、学科紹介及び3つの講義、着物体験などが新に盛り込まれた(資料②参照)。また、恵の丘長崎原爆ホームでは70歳代の女性から直接被爆体験を聞くことができた。被爆したときは12歳で、家族、親族11名が原爆の犠牲になった。自身も後遺症や「原爆症は向こうへ行け」と言われ偏見に苦しんだことが語られた。KCC学生の感想は、利用者がケアされていることが実感できること、静かな環境でピースフルであると感銘を受け、「親をお願いしたい」という発言があった。



卒業証書伝達式・謝恩会への参加の様子

活動報告



卒業証書伝達式・謝恩会への参加の様子



着物着用体験



保健学科実習室見学



医療施設見学



KCC学生は、病院施設での看護やリハビリテーションの実際に触れ、自分たちのケアのあり方を見直し、質の高いケアを提供できる看護職者になりたいと語ってい

た。また、日本に友人が出来たことを非常に嬉しく感じており、帰国後も連絡を取り合っていると聞いている。



ホームステイ学生と



# 活動報告

カウアイ・コミュニティーカレッジ交流2008

滞在スケジュール

2008.3.28

	3/21 (金)	3/22 (土)	3/23 (日)	3/24 (月)	3/25 (火)	3/26 (水)	3/27 (木)	3/28 (金)	3/29 (土)
午前	Lihue 発 06:15 Honolulu 発 08:05		10:00- 長崎市内散策 (1) 長崎歴史文化博物館 ショッピング	10:00 保健学科長表敬 医学部長表敬 10:45 場所：会議室 旧原研2号館見学	10:30-11:30 長崎大学医学部・歯学部附 属病院見学 看護部表敬 病院：外科病棟、分娩部見 学	8:30 - 原爆資料館 爆心地	10-12 恵の丘長崎原爆ホー ム別館見学 (9:30 出発 長崎 駅前集合)	10:00 ホームステイ家族 と対面 10:30-11:30 教員交流会議 場所：院生講義室	10:00 ホームステイ先より ホテルへ帰着
昼食				ランチ 場所：会議室	弁当			教員との会食 場所：会議室	
午後		J075V 12:05 成田着 バス移動 JAL1849 羽田発 16:00 → 長崎空港着 18:00 高速バスで市内へ		14:00-16:00 講義 保健学科の概要 看護学・理学療法学・作 業療法学の概要 フィリピンの看護体験報 告 カウアイ・コミュニテ ィーカレッジの紹介 場所：院生講義室	13-14:00 卒業伝達式参加 15:00-16:00 講義：日本の医療システム 講義担当：森下教授 16:00-17:00 保健学科施設見学 在宅支援室 助産学実習室	11:30-14:00 長崎北病院見学 (11:10 出発) 15:00-16:00 熱帯医学研究所見学 長崎市内散策 (2) ：出発	観物体験 長崎市内散策 (3) 諏訪神社 眼鏡橋		14:00 高速バスで 空港へ移動 15:40 JAL4358 長崎空港発 → 小 牧空港着 16:55 バスで名古屋空港へ 22:00 J084V 名 古屋発 Honolulu Lihue 着 12:27
夕食				Welcome Party 17:30-	謝辞会参加				
備考		出迎え							見送り

資料② 滞在スケジュール

今回の受け入れプログラム内容に対して、KCC 学生及び教員が大きな充実感を得て帰国したことがうかがえる。シャーリーン・オノ教授からのメールの一部を紹介する。

Thank you for sharing your hospitality and healthcare system with us. I have visited Japan and Nagasaki before but this visit has definitely touched my heart and will affect the students. I had an exciting opportunity looking at the healthcare of the geriatric in Nagasaki, Japan... What stood out me in my mind were several things: The staff was very gentle with the patients, talking slowly and quietly. They were not rushed. They treated them with respect. I was impressed by the meal presentation. Even though the food may be a soft diet or edentulous diet, presentation of the meal was still very important... Nagasaki atomic bomb Museum, medical museum at the Nagasaki University, and the hypocenter. We may have read a little about the atomic bomb, but it really hit me when I visited these areas. It really opens one's eyes and value peace. This experience will promote the necessity of world peace... Dooom Arigatogozaimasu

Char Ono

## VI 今後の交流活動の課題と可能性

アメリカと日本というバックグラウンドが異なる社会のなかで「保健医療福祉制度」「保険制度」があり、同様に「医療制度」のなかに「看護制度」があり、「看護教育」が行われている。短いプログラムの中で双方がそれらを

理解するにはかなりの困難がある。そこでテーマを1～2に絞り、事前に双方の事情を交換し、準備をしてプログラムに参加すればディスカッションにつながると考える。今回の訪問に当たり、KCCでは長崎を理解するために原爆とその被害についての事前学習をしてこられた。原爆後障害医療研究施設2号館で視聴したビデオは原爆による被害のなまなましさをまとめられたものだった。学生にとって想像を絶するものだったと思う。そのことが恵の丘原爆ホームでの被爆体験者の話を理解することにつながったと考える。また、体験者への質問もなされていた。このように事前学習や講義などの後に関連した施設を見学するプログラムは学生が知識を具体化させ印象を強めることに役立つと考える。また、長崎は島嶼部をかかえているという地域的な特徴があり、カウアイ島はハワイ諸島の一郡であり、離島医療を考えるのもテーマの一つと考える。

本交流事業に関する費用は原則自費であることが以前話し合われたが、歓迎会やホスト学生への支援、本学教員が施設等に引率する時の負担を考慮して教育後援会や教員から寄付を募った。今後施設見学等プログラムの経費を早めに揭示し、計画を進めていく必要がある。ホームステイは1泊2日であったが、学生への周知等が遅れ、また受け入れ時期が春季休業中でもあり、ホスト学生を確保するのが困難であった。交流に関心がある学生が参加できるように周知の方法等が課題となった。

多くの文化を知ることは多くの人間へのケアの可能性を拡大する。保健医療の分野で学ぶ学生同士、それぞれが属する集団の文化を尊重し、自己の文化との共通点・相違点を認識し、自分の看護を語りあえるように本交流が継続していくことを期待したい。

引用・参考文献

- 1) State of Hawaii, Department of health, Hawaii health Survey 2005.  
[http://hawaii.gov/health/statistics/hhs/hhs\\_05/index.html](http://hawaii.gov/health/statistics/hhs/hhs_05/index.html)
- 2) U.S. Census Bureau Web site, American Community Survey :  
<http://www.census.gov/acs/www/> 2 Ibid. (U.S. Census Bureau. Kauai County, Hawaii-Population and Housing Narrative Profile : 2005-2007 [hawaii.gov/dbedt/info/census/ACS2007/acs\\_hi\\_2007\\_geographic\\_3\\_yr/acs\\_hi\\_2007\\_geographic.../acs07nar\\_kauaicnty\\_3yr.pdf](http://hawaii.gov/dbedt/info/census/ACS2007/acs_hi_2007_geographic_3_yr/acs_hi_2007_geographic.../acs07nar_kauaicnty_3yr.pdf))
- 3) Telehealth Research Institute at UH Manoa :  
<http://www.tri.jabsom.hawaii.edu/tri/>
- 4) Loretta Schlachta-Fairchild, Victoria Elfrink, Andrea Deickman: Patient Safety and Quality : An Evidence-Based Handbook for Nurses: Vol. 3.  
[http://www.ahrq.gov/qual/nursesfdbk/docs/SchlachtaL\\_PSTT.pdf](http://www.ahrq.gov/qual/nursesfdbk/docs/SchlachtaL_PSTT.pdf)
- 5) Kauai Community College homepage :  
<http://kauai.hawaii.edu/>
- 6) 大西真由美, 大石和代 : カウアイ・コミュニティ・カレッジとの学生交流プログラム実施可能性ならびに適正に係る視察・協議報告書, 平成20年10月15日, 第7回看護学専攻会議資料7.
- 7) 6) Hawaii Governor Web site :  
<http://www.hawaii.gov/gov>
- 8) City and County of Honolulu Web site :  
<http://www.co.honolulu.hi.us/>

# Faculty and Nursing students visitation from Kauai Community College in Hawaii 2007-2008

Satomi YAMAGUCHI<sup>1</sup>, Hideko URATA<sup>1</sup>, Shigemi IRIYAMA<sup>1</sup>, Akiyo INOUE<sup>1</sup>

Yuko NAKAO<sup>1</sup>, Noriko SASAKI<sup>1</sup>, Ayumi NOMURA<sup>1</sup>

Goro TANAKA<sup>2</sup>, Toshiya TSURUSAKI<sup>2</sup>, Hisayoshi NAKAJIMA<sup>1</sup>

1 Department of Nursing, Health Sciences, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

2 Department of Physical Therapy, Health Sciences, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

Received 20 February 2009

Accepted 13 March 2009